

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071001194		
法人名	草寿 株式会社		
事業所名	平尾宅老所		
所在地	福岡市中央区平尾1丁目10-6 (電話) 092-522-1121		
自己評価作成日	令和4年9月26日	評価結果確定日	令和4年12月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員一人ひとりが笑顔・思いやり・気づきを持ち、私たち自身を自分の家族が利用したい施設づくりを目指します。アットホームな雰囲気でご入居者の皆様に穏やかな生活を提供しています。ご家族、地域、施設が共に協力できる体制づくりに努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和4年10月19日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、市街地にある11階建てビルの1階から3階にあり、4階から上階は賃貸住宅になっている。「医・食・住」を通じて社会貢献することを目的としたグループとして、病院を始め、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、有料老人ホーム等がグループ内別法人で運営されている。

職員は、利用者に寄り添い、一人ひとりとコミュニケーションを取り、役割のある生活を継続できるように支援することを心がけている。

感染症の拡大により、積極的な地域活動が制限されているが、今後、徐々に活動を再開したいと考えている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関に掲示し、職員が、いつでも確認できるようにしている。月に一回のユニット会議のレジュメにも記載している。	地域密着型の視点を持った理念を毎月のユニット会議で共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候が良い日には、近所を散歩したり、近隣の神社へお参りに行く機会を作っているが、地域の方との交流は、あまりできていない。	町内会に加入し、利用者と一緒に段ボール等の古紙回収に参加している。コロナ禍前までは、同建物の賃貸住宅に入居している住民や、企業内保育所への訪問等、地域との交流を行っていた。現在は、地域に出向くことが難しいため、事業所内の様子が分かるように、ホームページを活用し、発信している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響もあり、地域の行事等への参加はできていないが、施設内での取り組みの報告を書面で行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響もあり、現在は運営推進会議の開催はできていないが、施設内の取り組みや事故ヒヤリハットの件数、入居者様の人数等の情報を書面で報告している。	運営推進会議は2ヶ月に1度の頻度で、現在は書面開催となっている。利用者や家族、地域包括支援センター、町内会長、民生委員が構成員となり、意見交換を行っている。会議の中で、地域で課題となっている認知症や介護の相談があり、その際は事業所が相談窓口となることがある。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査員が施設に来られ、ケアマネジャーに確認しながら聞き取りを行う等、協力関係を築くように努めている。市役所等へ相談する際は、メールでスムーズに行うことができる。	日頃から行政へ運営に対する連絡や相談を行い、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。地域包括支援センター職員が、定期的に事業所を訪問し、情報交換を行うこともあり、双方向での連絡、相談体制を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待、身体拘束廃止委員会を設置して、定期的に勉強会を行っている。また、行動を抑制しないように注意をはらって対応している。	玄関に事務所があり、事務スタッフが常駐している。スタッフがいない時間は玄関扉を開放している。帰宅願望のある利用者には、声かけや、一緒に外を散歩する等し、行動を制限することはない。身体拘束ゼロ宣言を掲げており、身体拘束は行っていない。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待、身体拘束廃止委員会を設置して、定期的に勉強会を行っている。ユニット会議で話し合いの時間を設けている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度勉強会を行っている。資料等は職員がいつでも見れるようにユニットに置いている。	入口の相談スペースに、成年後見制度のパンフレットを準備しており、必要に応じて説明する体制ができています。事業所の年間研修計画に、権利擁護が組み入れられ、全職員が研修を受講し、研修レポートを提出している。受講できなかった場合も、資料を閲覧し、レポートが提出されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は所長が窓口になり、入居者様やご家族の希望や不安な点を確認し、納得いただける説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話から入居者様の要望を汲み取るようにしている。ご家族様には電話で伺うようにしている。	利用者は日常的に意見や思いを職員に伝えられる機会がある。家族から写真が欲しいとの希望に対して、行事や日常の写真を送る等、職員は家族の意見等を聴くように努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を開催して意見交換を行っている。必要なことはその都度改善している。	管理者は、年2回、目標設定の面談を個別に行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。行事の立案等において、利用者が楽しめるよう職員から出されたアイデアや意見は、運営に反映されている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標を設定してそれに伴う評価を行っており、各自が向上心を持って取り組めるようになっている。 健康診断は年2回行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用は性別や年齢、経験に関わらず、それぞれの個性や人柄にも目を向けて採用するようにしている。	事業所には幅広い年代の職員がおり、留学生の受け入れも行っている。定年は設定されているが、継続して勤務する希望があれば、勤務可能な時間や家庭の状況、体力等に応じて、嘱託職員として勤務が可能である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の一人ひとりの人権を尊重したケアが行えるように、施設内で人権・権利擁護の研修を行い、理解が深められるように努めている。	年間の研修計画に、人権教育等が組み込まれており、毎年実施されている。全職員が受講し、受講できない場合は資料を閲覧し、レポートを提出している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、研修を行っている。様々な分野について学ぶ機会を設けている。市の開催する研修も積極的に参加を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回、グループ内で研修を行い、情報交換や相談、勉強会を開催して、業務に活かせるように努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際は事前に面会に行き、要望や不安を伺うようにしている。希望があれば施設見学も可能で居室も見ることができる。ADL等の情報は、入居前に職員が共有できるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様が気になることはお聞きしている。要望はケアプランに反映するようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に情報収集を行い、何が必要かを確認して適切な支援に繋げている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居様が過ごされた話を聞いて、その時代のことを学ぶことができる。お手伝いや作品作りも一緒に行っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の体調不良があった場合は、すぐに電話で報告を行っている。コロナ感染防止のため直接の面会ができないので、変化があればその都度連絡をしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染防止のため直接の面会ができないが、リモート面会や電話やお手紙の対応を行っている。	利用者の馴染みの人や場所について、利用者や家族から聴取して把握している。また、利用者が友人等に電話で連絡することを取り持つ等、つながりを継続できるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握しており、職員が介入してコミュニケーションが円滑になるように配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでのご本人様の好みや習慣をお伝えしている。ご相談があればできる範囲で対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話から思いを汲み取り、記録に残すことで情報共有を行っている。ご家族にも意向を伺い、生活に必要なケアに努めている。	思いや意向の把握は、以前の生活状況や、入居前の施設や病院からの情報を基にして、本人や家族から意向を確認している。本人の意向の確認が難しい場合は、行動や表情から意向を推しはかり、スタッフ会議で検討し、把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から情報収集を行い、その情報を職員間で共有できるようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や様子の変化は必ず申し送り把握するようにしている。入居者様のできる力を活かしたケアが行えるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議の際に入居者様の状態等の確認を行い、今のケア方法が合っているかを検討する。ケアプラン作成時にはご本人様、ご家族様に意向を伺い、反映するようにしている。	介護計画は、入所の際に暫定のケアプランが作成され、1ヶ月後に評価、アセスメントを実施し、ケアプランを確定させている。介護計画には一人ひとりに役割があり、個別具体性のある計画が作成されている。介護計画の見直しは6ヶ月に1度行われ、家族に説明し、署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な状態の変化やちょっとした発言も個別の記録に残したり、申し送りノートを活用することで、職員の情報共有を行い、実践に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の対応が難しい病院受診の付き添いや買い物代行等の支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で意見交換を行うようにしているが、コロナ感染防止の為に書面でのやり取りになっている。 消防訓練は年2回行い、消火器の練習等を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回訪問診療を行っている。必要であれば歯科、皮膚科の往診も依頼している。他科受診も対応している。	利用者は、かかりつけ医への受診の継続か、提携する医療機関をかかりつけとすることを選ぶことができる。提携医療機関は、月2回、訪問診療を行っており、内科、皮膚科、歯科の受診が可能である。臨時的な受診は家族が支援するが、家族の受診同行が困難な際は、事業所が送迎や受診同行することもある。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時の連絡体制としてナーシングステーションの支援が利用できる。週に1回、入居者様の状態を報告して連携に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療機関と連絡を取り、情報の把握に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの意向をご本人様、ご家族様に確認して文書を交わしている。状態の変化については早めに主治医に相談している。	重度化対応・終末期ケア対応指針があり、訪問看護ステーションと連携することにより、重症化、終末期の支援を行っている。医療処置の必要がなければ、継続して当事業所で生活することも可能である。医療処置が必要となれば、同グループの提携病院が基幹となり、入院調整を行うことが可能である。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故等の緊急時の対応は、施設内研修を行い学んでいる。ご本人様の状態に合わせてケア方法、食事形態等を見直して事故防止に務めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方に指導していただき、年に2回訓練を行っている。職員が避難経路と入居者様の避難方法の把握に努めている。	避難訓練は年に2度実施され、1度は夜間を想定した訓練である。消防署の協力で、VRゴーグルを使った最新の消防訓練も実施されている。コロナ禍前は、地域の住民の訓練参加もあった。備蓄品も同建物内に適切に配置されている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の性格や認知症の症状の違いを理解して、その方に合った声かけやケアができるように努めている。また、共同生活の中でもプライバシーが確保できる声かけを行っている。	職員は入職時と退職時に情報管理に関する誓約書に署名し、個人情報の管理が徹底されている。日々の介護の際もプライバシーに配慮し、トイレや居室の扉は必ず閉めて身体介護を行うようにしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思確認を行いながら支援をするようにしている。入浴時はご本人に伺いながらタイミングを調整している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の観察を大切にして集団生活の中でお一人おひとりのリズムをなるべく尊重できるように配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時にブラッシング等の整容を行っている。洋服と一緒に選び好みの服装ができるように支援している。定期的に訪問理美容を利用している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳の際にはメニューをお伝えしている。食事の準備は職員が行っているが、片付けや食器拭き等は入居者様と一緒にしている。	食事は、ご飯と味噌汁を事業所内で調理し、副食は同グループの調理施設で作られた栄養士による栄養等のバランスに配慮された料理が提供されている。お茶碗や箸は、使い慣れたものを持ち込む事ができ、食器拭き等の準備、片づけを利用者と一緒に行っている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食記録して、摂取量が減ってきた方は主治医に相談しつつ、栄養補助食品も使用している。定期的に食事形態の見直しもやっている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者様に合った用具を使用して声かけや介助を行い、口腔ケアを実施している。入居者様によっては定期的に訪問歯科の口腔ケアを受けている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの方の排泄パターンを記録して把握することで、タイミングを見ながら必要な排泄支援を行っている。なるべくトイレで排泄ができるように声かけの言葉にも配慮しながら介助を行っている。	職員は、利用者の排泄のサインを把握し、トイレに誘導したり、定期的に声かけして支援している。入所時におむつを着用していた利用者が、排泄の自立支援が行われ、紙パンツとなった事例もある。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に水分の摂取を促している。排便状況を朝礼、夕礼で確認し、処方された下剤の服用を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は決めているが、ご本人が望まれない時は調整している。週2回の入浴が体調不良等でできない場合は清拭を行っている。	入浴は、日曜日を除いて毎日実施されており、日曜日でも希望すれば入浴は可能である。1日に3人のペースで入浴が提供されているため、週に2回の入浴となるが、希望があれば、入浴日以外の日でも入浴ができる体制である。季節にあわせてしょうぶ湯等、入浴が楽しみになるように工夫している。入浴を望まない利用者に対しては、足浴からスタートし、徐々に入浴してもらうように取り組んでいる。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は入居者様の希望や体調に応じて臥床時間を設けている。夕食後はそれぞれの方のペースで居室に戻っていただき休まれている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調や行動、食事摂取量、排便状況に変化があれば訪問診療時に医師に報告している。薬の処方に関する情報は入居者のカルテに保管しており、職員がいつでも確認ができるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物干し等、家事のお手伝いをお願いしている。入居者様の誕生日会や季節毎の行事、作品作りを行い楽しめるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩や玄関先での外気欲等、出かける機会を作っている。コロナ感染防止のため、お出かけや買い物はしていない。	感染状況に留意しながら、日常的に事業所周辺を散歩をしたり、近所の神社へ花見に出かけたりしている。コロナ禍により外出支援が少なくなったため、事業所内でのレクリエーションを充実させ、外食ができない代わりに、仕出し弁当やピザをとって、事業所で食事を摂る等、外出支援に替わる支援に積極的に取り組んでいる。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が個人で金銭の所持はしていない。購入する物や買いたい物がある時はご家族にお持ちいただくか施設管理の預り金を使用している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話をかけた時、ご家族との通話の際は、ご本人と代わって話をさせていただく機会を作っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内では季節に合わせた飾りつけを行っている。フロア、トイレ等は毎日掃除をして不快感を感じないように気を付けている。	事業所の共有空間には、日々の製作活動で作製された作品が掲示され、季節感を採り入れて、利用者が居心地よく過ごせるように工夫されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性の合う入居者様が同じテーブルに座っていただけるように席順に配慮し、会話ができる環境作りに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が安心して過ごしていただけるように馴染みの物やご家族の写真を居室に置いている。	居室には、ベッドと床頭台が備え付けられており、それ以外の物に持ち込みの制限はしていない。以前、使用していたタンスや仏壇、テレビ等が持ち込まれており、壁には家族の写真や作品が飾られている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉に表示を貼り位置が分かるように工夫している。居室の入り口にお名前を表示している。それぞれの入居者様が安全に移動ができるように環境整備に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のスタッフ会議で理念の確認を行い、立ち戻り、入居者様の生活支援に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週末にダンボール等の資源提供や近所へ散歩に行く時間を設けている。地域の方と会った際は、ご挨拶をして交流を図っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議が、まだ開催できない状態ではあるが、包括支援センターや町内会長と連携を図り、情報収集を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での会議になっているが、地域の方と連絡を取りながらサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に2回、町内会長の訪問の際に近況報告を行い、情報共有している。その他の地域活動は広報誌や回覧版で確認している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回、身体拘束の勉強会を実施し、月に1回、身体拘束委員会で勉強会を行っている。外出はコロナの感染状況を確認しながら安全に配慮して行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	年に1回、虐待についての勉強会を実施。月に1回、虐待防止委員会を実施して、虐待防止に取り組んでいる。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設にて、勉強会を実施して権利擁護について学ぶ。ご家族様からの要望があれば、説明を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はご家族様と話し合い、十分な説明を行い、納得していただいている。内容に変更があった場合は、その都度説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様には定期的に困ったことや要望を確認している。ご家族様には面会の制限をしているので、電話で対応している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けて、業務等に活かしている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、目標管理シートを職員に書いてもらい、やりがいや向上心をもって働けるように職場環境を整え、職員の勤務継続に力を入れている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集は、年齢性別を問わずに行っている。 また、向上心を持って働くことができるように人材育成に努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	あらゆる場面において、基本的人権を尊重して職員の個性を尊重して人材育成に努めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修や管理者研修に参加している。また、グループ内で介護福祉士や実務者研修等の資格取得支援を行い、技術や知識を身につける場を設け、職員の質の向上を目指している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ユニット会議、勉強会で意見交換を行い、施設内の連携をスムーズに行うように努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が安心してお過ごしいただけるように日々の声掛けや傾聴により本人様の気持ちを理解しながら関係性を築いている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的に家族様へ電話を行い、本人様の情報を伝え、安心していただく。ご家族様にも意向を確認して、関係作りに努めている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様に日々の様子や要望をもとに、今後何が必要かを見極めていただき、施設でできる限りの対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に食事の準備をしたりすることで本来の個性やできる力が理解できて、入居者様と時間をかけて対応する姿勢を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話、リモート面会を中心にご家族様とコミュニケーションを取りながら、本人様を支えていく関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、リモート面会を中心にご家族様やご友人、知人との関係が途切れないように支援に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事をする席の配置は決めているが、本人様の性格も考え定期的に席替えを行い、入居者様の関わり合いを大切に支援に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも相談を受けることがあれば支援している。次の施設で必要とされる情報などは書面にして引継ぎを行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員全員が入居者様の思いや意向に関心を持ち、把握に努めている。ユニット会議等で意見交換をして、できる限りの対応で入居者様の思いに取り組んでいる。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様の生活歴、環境等を職員全員が把握して、施設でも元気に過ごしていただける環境作りに努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が申し送りノートで情報共有を行い、入居者様の毎日の過ごし方を把握してサービスに努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が楽しく暮らしていただけるようにユニットで日々の変化や気づき、課題を出して作成の材料にしている。ご家族様や本人様にも要望を確認して臨機応変に対応している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を具体的に記録に残し、情報共有しながら日々のケアに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他科受診の付き添いや送迎、急な買い物等は職員が対応している。また、本人様と一緒に近くの店で好みのおやつを購入する機会もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広報誌や回覧板での情報収集を行っている。状況を見ながら近隣へ散歩に行くなど、地域で楽しく生活ができるように取り組んでいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医、協力医療機関の受診の選択ができるように確認を行っている。状況に変化があった場合は、適切な医療を受けられるように病院、ご家族様と連携を図っている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理や状態の変化は主治医に相談や報告を行い、必要な時は受診や看護を受けられる体制づくりに努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必要な情報提供を行い、ご家族様や病院と連携を図り、ご本人様の心身の負担が軽減できるように努めている。また、早期退院に向けて状況把握を行い、積極的に支援を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期ケアに関する同意書进行を交わしている。入居者様の変化の早い段階からご家族様、医療関係者と話し合いを行い、方針を決めて支援に取り組んでいる。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成して、適切な行動が取れるように定期的に研修や訓練を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ感染防止により、外部の方の参加は控え、施設内で機材の確認や消防署への電話通報の訓練、避難通路の確認等を行っている。 非常備品は約5日間分を準備している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に入居者様の人格や権利を守る為の研修を行い、職員に周知している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の表情や動きを注意深く観察して、決める力、できる力を引出し、日常生活の支援に努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様お一人おひとりの生活ペースを把握して、その方に合わせた支援ができるように努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容や訪問理美容を活用して身だしなみを整えられるように支援している。毎日のお洋服は入居者様と一緒に選び、お洒落を楽しんでいただけるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に数回、入居者様の食べたい物を聞き、季節感のある食事ができるようにお店に注文したお弁当や食事の提供を行っている。食事の準備や片付け等を一緒に行い、家事を楽しんでいただけるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態、食事内容や摂取方法の工夫を行い、栄養確保に努めている。また、好みの飲料を準備して無理なく摂取できるように努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い、口腔ケアを行っている。介助が必要な方は職員がスポンジ等でケアを行っている。訪問診療による口腔ケアも行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認表を活用しながら、入居者様のタイミングに合わせてトイレ誘導を行っている。個々のトイレに行きたい行動を見逃さずに誘導が行えるように支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操を行い、自然排便を促す工夫をしている。主治医と相談しながら内服をし、使用する場合もある。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、時間は入居者様のタイミングに合わせている。体調不良や気分の変化が見られる際は、時間や曜日を変更して気持ちよく入浴していただける環境を作っている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活習慣や体調に合わせて休息、睡眠時間が取れるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はファイリングして、変更があれば職員で情報共有している。経過や変化は記録している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご家族様の情報等から楽しみや趣味を把握して、入居者様に合った役割や活動提供を行い、活気のある生活を送れるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり、以前のような散歩の機会は減ったが、近所の神社や公園に時々出かけている。1階のエントランスの金魚に餌を与えたり、観賞する機会も設けている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の能力に応じて、買い物の際は職員がお手伝いしている。契約時に、金銭管理の契約をされている方は施設で金銭管理を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	直接の面会ができない状態なので、リモート面会や電話で交流している。お手紙の希望があればお手伝いしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた飾りや壁画を入居者様と一緒に作成して、リビングや廊下に飾っている。空調も気を配り、快適な環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様が、同じテーブルで過ごすことで楽しく心落ち着く環境作りを行っている。また、ゆっくりされたい時は居室で過ごしていただく声掛けも行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が大切にされていた物や好みの物を安全面も考慮して居室に置き、居心地の良い空間になるように努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の能力を活かして安全に移動できる動線を確保している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとりが笑顔・思いやり・気づきを持ち、私たち自身と自分の家族が利用したい施設づくりを目指している。月に一回のユニット会議で意識付けのためにレジュメにも記載している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で以前のような地域交流の場は減っているが、資源回収の持込の際は地域の方と挨拶をして繋がりを大切にしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方と交流できる地域清掃や敬老会も施設内で実施しており、施設での取り組みや活動等の報告は書面で報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染防止で外部の方の参加は控えているが、2か月に1回、運営推進会議を行って、取り組みや事故、介護度等の報告を行い、書面にして発信している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	更新時期には、認定調査委員の方が入居者様のようなすを確認。生活状況やサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回、施設内研修を行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。1階の玄関は定期的に開放して、入居者様が職員と一緒に外出できる環境を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	日頃から職員間での声かけを心がけ、良好な人間関係と環境作りに取り組み、虐待防止に努めている。施設内研修を年2回行い、学ぶ機会を設けている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度として、成年後見制度などについては年1回の研修を受講しており、必要であれば活用できる支援を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際はご本人様、ご家族様へ説明を行い、合意をいただく時に不安や疑問点を確認したうえで契約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階事務所前にご意見箱を設置して、改善に繋げている。ご家族様からご意見があった場合は速やかに所長へ報告し、改善に努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議で職員から意見や提案を聞く機会を設けている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に所長との面談の場を設けている。職員の実績や勤務状況の把握に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集や採用に関しては、性別、年齢、経験は問わず、個々の能力を発揮できるように個性、人柄等に目を向けて採用にあたっている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者様の人格を尊重し、職員においても施設内研修で人権権利擁護、個人情報保護等の勉強会を行い、理解を深めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修や外部研修に参加して、現場で活かせるように人材育成に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した際は同業者との意見交換等を行い、情報収集に努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が施設で安心して過ごしていただく為に、声かけや傾聴に気を配り、信頼関係を築ける環境作りを目指している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の相談や要望はしっかり話を聴いて、安心して入居していただくような関係作りにも努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の体調面、精神面、利用料やその他の費用等を考慮して対応を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活習慣やご本人様の好みを等を知ること で信頼関係を築き、職員が話やすい存在であるように心がけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	直接の面会ができないので、電話で様子を伝え、要望や心配なことを伺い、ご家族様と協力して、ご本人様が安心して過ごしていただける環境作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	リモート面会を実施しており、できるだけご本人様の表情を見ていただけるように努めている。電話や手紙等でも対応している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食器洗いや洗濯物たたみ等と一緒に 行い、入居者様同士で会話ができる作業支援に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても他の施設のご案内や提案ができるように相談や支援に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様に担当職員が付いており、ユニット会議で入居者様の意向やケアについて意見交換を行っている。ユニット全員で情報の把握に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴はユニットのカルテに保管しているので、繰り返し目を通し、ひもとくことで把握を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様のできる力、わかる力に目を向け、日常生活パターンを確認しながら状況の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様にどのようなケアが必要なのか、楽しく過ごしていただくために、ご本人様、ご家族様に要望を確認して、介護計画の作成に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態観察を行い、具体的に記録を残している。何か変化があれば、職員間で記録した内容を情報共有できることで記録の大切さを伝えている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合ったサービスの提供に心がけ、個別ケアを行うように努めている。また、ご本人様の要望に沿ったサービスの提供に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染防止のため地域の行事は参加を控えたが、近隣への散歩等入居者様が気分転換になるよう心がけている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の状態観察と訪問診療時の主治医への報告を行い、必要に応じて他科受診の相談もしている。ご家族様の希望も確認しながら適切な医療支援を受けていただけるように努めている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ナーシングステーションへ連絡することで看護の支援ができ、週に1回、入居者様の状態報告を行い、連携を図っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族様や医療機関には適切な情報提供を行い、治療や入院がスムーズにできるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に事前要望書の記載をいただいている。今後、見取り期に入り、医療的な管理が必要になった場合は再度確認を行うようにしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、各ユニットにマニュアルを設置しており、年に2回は施設内研修で実践練習を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を決めており、非常災害に対する通報や連携体制を定期的に職員に周知している。年に2回、避難訓練・研修も行っている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの関わり方に考慮しながら適切な言葉かけや対応に努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様に意思確認を行い、決めていただくように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースや希望の時間、好みの食べ物等にできるだけ対応して、その都度意思の確認を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の更衣の際は本人様と一緒に選び、支援している。月に一回の理美容を利用してカット、顔そり等を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の食べたい物をお聞きして、年に数回、行事食として提供している。お誕生日会ではケーキを準備している。		



項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握、毎月の体重測定で増減の観察を行い、入居者様の介助方法や食事形態の見直しに努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、義歯の洗浄等、必要な方には介助をして、清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を基に、入居者様のパターンを確認して、トイレの声掛けや失禁の確認を行い、入居者様の自尊心にも配慮しながら介助を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しやトイレ時の腹圧やマッサージを行い、対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週2回の入浴で曜日は決めているが、当日本人様が希望されない時や時間を変更されたい場合は、できる範囲で要望に沿えるように努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、傾眠が見られる場合は臥床時間を設けて、休息していただくように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療時に入居者様の現状報告、体調に変化があれば、その都度主治医に報告を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動、新聞購読等、今までの生活の継続になるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出の機会が減っているが、天気の良い日は近隣の神社やお散歩にお連れする等、支援を行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の必要な物や欲しい物をお聞きして、ご家族様に準備していただいたり、管理している預り金より支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やお手紙のやり取りでご家族との関係を繋ぐ支援を行っている。 携帯電話をお持ちの方もご家族やお友達に連絡をして楽しく会話をされている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるようにユニット内は飾り付けを行っている。また、ユニット内の湿度や温度管理に気を配り、過ごしやすい空間作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様がゆっくり会話ができるように座席の配置を工夫している。テレビを見ながらゆっくり過ごせるようにソファを置いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自宅で使用したテレビや写真、仏壇等を置いて、今までと変わらないような環境づくりに対応している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の身体機能を考慮して、ベッドやタンスの配置を決めている。共用のトイレの場所も皆様にわかるように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		